



高都の

興味を喚起！

秋冷十月を飾る

古式復活の

郷土藝術 ● ●



竹本座創立
二百五十年

記念興行

どろとん
ほり
浪花座

(竹本座旧跡)

芳香といひ
使心地といひ
凡てO・K!



齒磨界のナムバーワン

ク
ラ
ブ
歯
磨



月十六日初日 午後三時開演
 (初日・二日目に限り二時開演)

鶴澤道八作曲
 食滿南北監督
 元祖義太夫
 記念狂言 世繼曾我 中村閑居のたん

前狂言 玉藻前曦袂 道春館より
 祈りのたんまで
 此處人形出遣早替りにて御覽に入申候

竹本津太夫作曲
 鶴澤綱造
 元祖義太夫
 記念狂言 碁盤太平記 山科のたん

次狂言 近頃河原達引 四條河原より
 堀川猿廻しの段まで

切狂言 妹脊山婦女庭訓 道行のたん

二日目より御値段

特等席 三圓五十錢
 (小物料三十錢)
 一等椅子席 二圓五十錢
 二等席 一圓三十錢
 三等席 八十錢
 大衆席 三十錢

◆特・一等指定席券五日
 前より發賣
 ◆お場取りは御電話で
 電話南(75)二六三一番

乍憚口上

大方御ひのみき様には御きげん塚（ま）のほか御よろしく大廳（だいどう）に存じ上げ候今年（ことし）は恰も元祖義太夫竹本筑後掾が道頓堀（みちとんぼり）に櫓（やぐら）を上げましたる貞享元年より二百五十年に相當いたしまするにつきその座の遺跡（いせき）なる當座へ文樂座人形浄瑠璃（ぶんがくざにんがけじやうるり）を移し記念興行を任りまするが狂言も義太夫に因みまする初演の「世繼曾我」を始めとして「基盤太平記」を永らく打絶（うちつた）えましたるを此度新たに節附（せつづ）けて上演（じやうえん）いたし「玉藻前（たまもの前へまきのたちと）曦（あ）袂（たもと）」も道春館（みちはるのやかた）のほか（た）に築邸（きずりや）のだんの金毛（きんもう）九尾（くわび）の狐變化（きつへんが）の件（くだ）りより祈（いの）りのだんまで大道具犬仕掛（おほきうぐわしかけ）にて人形早變（にんがけはやへん）りを御覽（ごらん）に入れ其他久々ぶりの「近頃河原達引（ちかごろのへらわたひき）」「妹有山（いませやま）婿女（むすめ）庭訓（にわごころ）」とも糺々（たが）入念（ねん）に相勤（あひま）め其他縁内（い）とりぐに御客（ごきゃく）様へ記念に相成（あひな）りまするやう取りしつらへましたれば何卒此度は控（ひか）けて御一覽（ごらん）下（くだ）されますやう御願奉申上候

昭和九年十月

道頓堀

浪花座

敬白

（竹本座舊跡）

元祖義太夫
記念狂言

世よ

繼つぎ

曾そ

我が

鶴澤道八作曲

中村閑居なかむらかんきよの段だん

この狂言は浄瑠璃でも歌舞伎でも打絶えて殆んど上演されて居りません。今度は義太夫の二百五十年記念興行です。から態々新しい筋附(鶴澤道八作曲)までして上演することにいたしました。といふわけは、この狂言こそ竹本義太夫によつて貞享元年竹本座の旗擧げ興行に堂々語られた由縁を持つからです。御覽下さいましてお氣づきになります象徴的な舞臺裝置その他、こゝでは總てを義太夫當時の面影を偲ぶためにその慣例に従ふことにしました。

前狂言 玉藻前たまもの まへ曦袂あさひの たもと

道春館より祈りの段まで

この浄瑠璃は寶曆元年正月豊竹座に上演されたもので殺生石の傳説を題材とし鳥羽帝の御兄薄雲王子の叛逆と妖狐の化現玉藻前とを取合せて趣向を凝らしたる五段物の作です。この浄瑠璃の本年の趣向である奇想天外の妖怪變化の味ひは科學萬能の現代から振り返つて見ますと、亦興味盡きぬものがあります。

元祖義太夫
記念狂言 碁盤ごばん太平記たいへいき

竹本津太夫
鶴澤綱造つなぞう作曲

山科やまのしなの段だん

假名手本忠臣藏を始め殆んど百種以上もあらうとおもは

れる赤穂義士を扱つたものゝ中でこの碁盤太平記は先づ最初の作と云つてもよいもので寶永三年六月に近松門左衛門により書卸され始めて義太夫により竹本座で上場された狂言です。歌舞伎では既に鴈治郎十二曲の名藝となつてゐますだけに興味深々たるものがあります。

次 狂 言 近頃河原の達引

ちかごろかはら だてひき
四條河原より堀川猿廻しの段迄

「そりや聞はませぬ傳兵衛さん」で有名なこの淨瑠璃はおしゆん傳兵衛の心中を取材としたもので、天明五年五月江戸肥前座に書下され、爲川宗輔、筒川半二、奈河七五三助の合作であります。この堀川は全曲の中の巻になつてゐます。

切 狂 言 妹脊山婦女庭訓

いもせやまをんなていきん
みちゆきこひをだまき
道行戀の小田巻

明和八年（百六十一年前）の初公演で全曲五段から成つてゐます。

全曲の筋は藤原鎌足の子淡海が姿を棄して烏帽子求女となつて入鹿を滅さんとし、獵師芝六漁師鱈七の働きと、橋姫、杉酒屋のお三輪の犠牲によつて目的を達すると云ふ運びであります。

毎度ありがとうございました
此次きの御観劇にも

是非皆様の浪花座へ！

浪花座は必ず皆様に御満足して頂くやう諸設備に万全を期して是非皆様の御利用をお待ちしてをります
特・二等の番號入指定券三日前より發賣

諸種の御會合には

當座を御利用が好適と存じます

御申込次第係員書上總て御便宜に相計らひ申し上げます

多人數様……御觀劇の節は特別御相談申し上げます
お申込は……浪花座事務所へ専用電話南二六三一番
お食事は……當座直營食堂の御利用——を

大好評公演中

大阪松竹少女歌劇十月公演

青春の花束

全十四景

大阪劇場

爽やかなお化粧美

クラブ白粉

爽やかな秋に描く

あなたの輝く女性美



竹本座創立二百五十年
記念興行に因みて

竹本義太夫像



竹本

きかは便郵



座花浪堀頓道

PY

竹本義大夫



元祖義大夫
二百五十年記念興行

文樂座人形淨瑠璃



りぼん.とろど

浪花座

一部金二千銭

情
画

竹本座創立二百五十年紀念興行

人形浄瑠璃

元祖義太夫
記念興行

世繼曾我

中村閑居の段

前狂言

玉藻前 曦袂

道春箱より
祈りの段まで

此の所人形出遣早替にて御覽入申候

元祖義太夫
記念狂言

碁盤 太平記

山科の段

中狂言

近頃河原の達引

四條河原より
川猿廻しの段迄

切狂言

妹背山婦女庭訓

道行の段

當る昭和九年十月六日初日
毎日午後三時開幕

初日、二日目午後二時開幕

御入場料

特等席	金三圓五十錢
一等席	金二圓五十錢
二等席	金一圓三十錢
三等席	金八圓十錢
三等階	金八圓十錢
大衆席	金三圓十錢

・前賣切符の御利用を願ひます。

わざ／＼御來場下さい、いまでも満員の爲め
不止得御入場を御斷り申上げる場合が往々
御座います故御便宜上特・一等席に限り前
賣切符の御利用を願ひます。前賣切符は御
觀劇日ご御場席を御指定の上電話又は御
使にて御用命下さいませれば御一名様にて
も直ちに御場取り致します故御觀劇には最
も御便利と存じます。是非御利用下さいませ。

(專用電話南二六三一番)

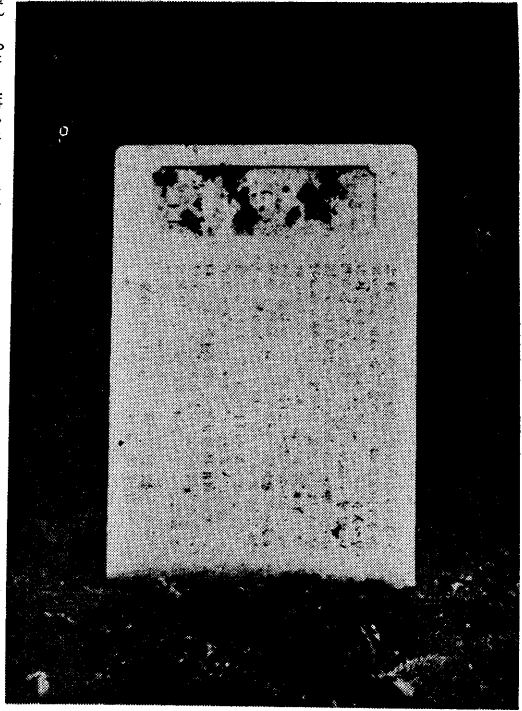
元祖義太夫創業二百五十年

記念興行に際して

白井松次郎

現在浪花座の地に貞亨元年二月竹本義太夫が新淨瑠璃義太夫節を創唱し、あやつり芝居の櫓を揚げて以來、今年恰も二百五十年に相當いたしますので、斯道に携はる者の光榮として、今度餘業を嗣ぎます文樂座連中の人形淨瑠璃一座をこの道頓堀浪花座に移して盛大なる記念興行をいたしたいと計劃しましたに就きましては私にとつては數々の想出もあるのでございます。思ひ出せば凡そ二十年以前に廻りますが大正二、三年の頃故人竹本攝津大掾がまだ鏝鏢たる時代、ある機會に私と大掾とが元祖義太夫の話に及びまして恰ど其頃が二百年忌に相當することを思ひ合はして（義太夫は正徳四年九月十日歿）その遺跡である道頓堀の浪花座で追善興行をすることが尤も意義があるとかう話が決つて早速その準備に着手することとなり、義太夫が最初の上演狂言「世繼會我」を特に新らしい節附けをしてやるといふことやいろ／＼奔走して居ります時にこの話が當時の堀江の芝居で興行をしてゐた大隅太夫一派の人々に聞かえて

向ふから大夫仲間へ抗議が持ち出されて來ました。それは義太夫の追善興行をやるなら文樂座の人々ばかりで勝手にやられては困るといふのです。大夫仲間ではいろ／＼仲間の制度や何かでゴタ／＼と紛めてゐたやうですが、之れを耳にした私は早速それなら兩座の人々で催されてはと解決したのですが、當時の状態では中々さうあつさりとは解決が附かず之れには攝津大掾も困られたと見えて折角の企てを遂に中止することとなりました。この邊にも温厚な人格者攝津大掾の氣持がよく現はれて居りますが、それは兎も角大掾も嗚殘念なことであつたゞらうと思ひました。そこでせめてもの記念にとて私から之れも既に故人となられた渡邊霞亭先生に撰文を金田菊所翁に書を依頼して義太夫追憶の碑を箕面の山道に建設してこの企てを打切つたのです。が、廻つて往時を回想いたしますと、僅かな年數の間に語り合ふた人々の多くは故人になつてゐることを思ひ、文樂座の過ぎ來しあとを考へ、さうして今度は無事に竹本座創立記念興行を開演することが出來ますにつけても、當時不本意にもその目的を達し得ず故人となられた攝津大掾の靈も、共に喜んで頂けることゝ感慨無量のものがある次第です。



線を勤め竹本義太夫と改めて道頓堀に出勤す、義太夫淨瑠璃の名茲に與る元祿十四年五月筑後掾を受領し九重の上より召されて諸藝人の筆頭たり、正徳四年六十四才にて没す明年二百回忌に當るを以つて當流の末葉竹本攝津大掾碑を樹てて追遠の誠を盡す此の名永く朽ちず竹本根長へに絶えず。

大正元年十一月

霞亭 渡邊 勝撰
菊所 金田 畔書

竹本義太夫は慶安四季攝津天王寺の農家に生る通稱五郎兵衛幼きより音曲の天才あり井上播磨掾の高弟清水理兵衛の門に入りて理太夫と呼び宇治加賀掾座を出勤して深く道を究む播磨流は地の節長くして音を表す使比節を裏に用ひ加賀流は地の節を短くして音を裏に用ひ節を表に細くす我れ兩流の長を採らむとて遂に一流を語り出しぬ竹屋庄兵衛後見となり尾崎權右衛門三味

乍憚口上

大方御ひのき様には御きげん殊のほか御よろしく大慶存じ上げ候今年は恰も元祖義太夫竹本筑後
掾が道頓堀に櫓を上げましたる貞亨元年より二百五十年に相當いたしまするにつきその座の遺跡な
る當座へ文樂座人形淨瑠璃を移し記念興行を仕りまするが狂言も義太夫に因みまする初演の「世
繼會我」を始めとして「碁盤太平記」を永らく打絶えましたるを此度新たに節附けて上演いたし
「玉藻前 曦 袂」も道春館のほかに築地のだんの金毛九尾の狐變化の件より祈りのだんまで大
道具大仕掛けにて人形早變りを御覽に入れ其他久々ぶりの「近頃河原達引」「妹背山婦女庭訓」と
も精々入念に相勤め其他場内とりぐに御客様へ記念に相成りまするやう取りしつらへましたれば
何卒此度は枉げて御一覽下されませう御願奉申上候

昭和九年十月

道頓堀

浪

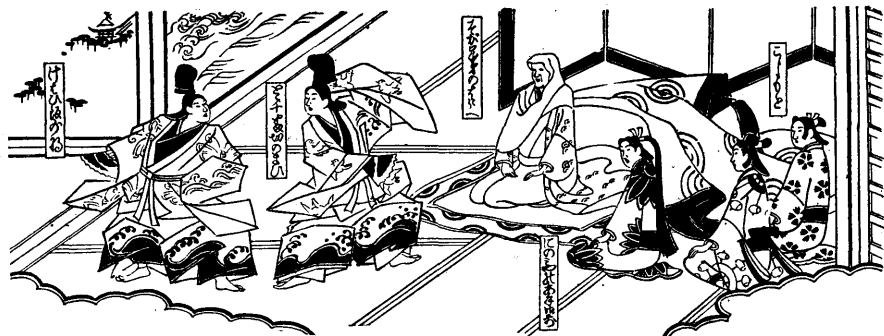
花

座

敬

白

(竹本座舊跡)



會我閑居の段

鶴澤道八作曲

- | | | | | | | | |
|---------|-----------|----------|----------|----------|-------|-------|--------|
| 一 母 滿 江 | 一 二の宮の姉御前 | 一 大磯の虎御前 | 一 化粧阪の少將 | 一 乳 母 | 一 女 房 | 一 三味線 | 一 鶴澤道八 |
| 一 乳 母 | 一 女 房 | 一 女 房 | 一 大磯の虎御前 | 一 化粧阪の少將 | 一 乳 母 | 一 女 房 | 一 鶴澤道八 |

人形

- | | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|
| 桐竹紋太郎 | 吉田文枝 | 桐竹紋十郎 | 吉田文五郎 | 吉田多三郎 | 吉田玉七 | 桐竹政龜 | 吉田玉次郎 |
|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|

元祖義大夫 世 繼 會 我
 記念狂言 鶴澤道八作曲 會我閑居の段
 この狂言は淨瑠璃でも歌舞伎でも打絶えて殆んど上演されて居りません稀らしいものです。今度は義大夫の二百年記念興行ですから態々新らしい節附(鶴澤道八作曲)までして上演することゝいたしました。といふわけは、この狂言が竹本義大夫の口によつて始めて語られたのが貞享元年二月、而かも義大夫が永らくの苦心の結果、それまでの古風な淨瑠璃に飽き足らず、自分獨得の工夫に依る新しい節を考案して、それを世間に問ふべく、宇治加賀椽といふ師匠の元を離れて、仕打の竹屋庄兵衛、三味線の竹澤權右衛門、人形には辰松八郎兵衛といふ人々と語ら

つて、大膽にも道頓堀に櫓を上げ堂々
その旗摩げ興行をやつたのです。その
出世狂言に、まだその頃は京都に居た
近松門左衛門が師匠加賀椽に與へる可
き筈であつた此世繼會我的狂言を書い
て與へたのです。さういふ風にまこと
に意義の深い芽出度い狂言で、その構
想から文章の妙味を仔細に見ますと中
々後世のものとは違つて、大まかな上
品な狂言です。全段は五段に別れて居
りまして、曾我兄弟の仇討を脇から見
たやうな筋になつて居りますが、今度
上演いたしますのは、此淨瑠璃の三段
目、曾我閑居の段で、題意に當て徹る
世繼ぎの場で此邊が中心になつてゐる
ところのやうです。兄弟の討入を案じ
て朝夕その消息を待ち侘びてゐる兄弟
の母の侘居です。姉の二の宮がこれを

慰めて居りますところへ、十郎の寵姫
虎御前と五郎の寵姫化粧阪の少將が兄
弟の遺品の品々を携へて訪ねてまゐり
ます。首尾よく仇討を濟ませて本望は
達したが捕はれとなつて死んだ兄弟の
ことを、いま病み煩はうてゐる母の耳
へ死んだと聞かしたら何れほど落膽す
るであらうかと姉の配慮で、虎と少將
には態と兄弟の狩衣の姿に改めさせて
さもく兄弟が歸つて來たやうにし
て、その勇壯であつた討入の模様を語
らせることになりませう。心得た二人は
早速に用意をして、その夜の有様を語
り、十番斬の模様をも詳しく語つてゐ
るうちに、追がは女性です、あまりの
悲しさに遂に泣きぐづれてしまひま
す。不審を抱いた母は追がに賢母です、
すぐそれと察して、共に悲しみますが

愚痴も云はず、兄の遺品の文を讀んで
みると、それには虎との間に今年三歳
になる祈時といふ子供があることが解
つて、その子を呼び寄せ、悲しいうち
にも喜びの對面をし、此子を曾我の後
繼ぎにすることに極つて、一座皆々愁
眉を開いて、芽出度く終に近づくとい
ふ。まことに味ひの深い狂言ですが、
ことさら敘り役の人々を選んで掛け合
ひで勤めさすことになつて居ります。
とりわけ申上げたいことは、此狂言の
構想から想像して、態と舞台を寫實風
から避けて象徴的な装置を試み、太夫
座をいつもの上手の床ではなく正面へ
据えたのも、即ち義太夫當時の面影を
偲ぶために、その慣例に従ふて見たの
ですから、その邊御諒承を願上げます。



前狂言 玉藻前 儀 袂

右大臣道春館の段

道春館の段より祈りの段まで

右大臣

道春館の段

神泉苑の段

此の所人形出遣ひ早替りにて御覽に入申候

廊下の段

對決の段

祈りの段

此の所人形出遣ひ早替りにて御覽に入申候

中竹本鍛太夫

豊澤新左衛門

切竹本土佐太夫

野澤吉兵衛

豊澤喜代太夫

野澤辰太夫

野澤吉太夫

豊澤團太夫

竹本駒太夫

竹本呂太夫

豊澤太夫

鶴澤太夫

竹本相生太夫

竹本小春太夫

竹本鏡太夫

豊澤廣助

竹本友太夫

鶴澤友太夫

竹本源路太夫

鶴澤友太夫

竹本貴鳳太夫

鶴澤友太夫

竹本貴鳳太夫

この淨瑠璃は寶曆元年正月豊竹座

に上演されたもので殺生石の傳説を

題材とし鳥羽帝の御兄薄雲王子の反逆

と妖狐の化現玉藻前とを取合せて趣向

を凝らしたる作で五段ものでこの段

は三つ目で俗に(玉三)と稱されてゐ

ます。安田蛙柱が立作者で淺田一鳥、

浪岡橋平が合作してゐます。この淨瑠

璃の内容を申し上げますと、右大臣道春

の娘桂姫を薄雲王子が懸想して侍妃

に迎へよふとしますが桂姫には安部采

女之助といふ侍と想思の仲にあるので

請入れませぬ王子は眷戀の情に馳られ

て腹臣の金藤治を遣はして、桂姫が應

じなければ家寶の名劍獅子王を出せと

難題を言かけます。獅子王の名劍は既

に何者にか盜まれてゐるので詮方なく

桂姫の首を遣る破目になつたが桂姫は

後室秋の方が實子ではなく五條坂で拾

ふた捨子であるので心が咎めて討つ事

が出来ず妹の初花を身替りに討たう

としたが追に之れも恩愛の絆にひかれ

て双が鈍るので双六盤を姉妹に侷めて

勝負をさせて何れかを討たうと苦肉の

策を思ひつきます。姉妹は互に死を讓

りあひましたが遂に桂姫が勝つて、初

花姫が討たれることになり首をさし延

べましたが金藤治は意外にも勝つた桂

姫の首を討落しましたので秋の方は怒

つて驚塚に詰ります。後室に態と斬ら

れた金藤治は初めて本心を明し桂姫の

實父であること、名劍を盗んだのも自

人形

右大臣道春館の段

一 鶯塚金藤治
一 采女の助
一 桂の花方
一 初納言重元
一 中納言久姫
一 大田扇太市

神泉苑の段

一 仕丁平作
一 玉藻又五郎
一 薄雲大臣
一 惡狐玉藻前
一 廊下の段
一 葛城局
一 千歳局
一 蒲局
一 美福門院
一 善狐玉藻前

對決の段

一 薄雲大臣
一 玉藻前
一 安泰成
一 祈りの段
一 吉田榮三
一 吉田榮三
一 吉田榮三
一 吉田榮三

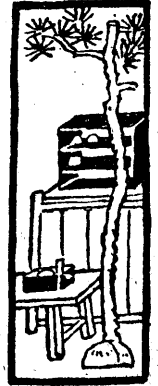
一 安泰成
一 惡狐玉藻前
一 吉田榮三
一 吉田榮三
一 吉田榮三
一 吉田榮三

分であるとして、苦しい息の下から、自分白しませ、す勅使が来て、妹の初花姫の歌才が天聽に達し、更衣の官に召抱へられるといふ筋合で、古雅な郷土香の秀れた逸品で御座ぬます。

この淨瑠璃の本来の趣向である奇想天外の妖怪變化の味は、全段五冊を通じて現はれるのですが、従来は多く人情味の秀れた三段目道春館だけが歌舞伎にも人形にも遺されたので、折角の趣向はあまりに荒唐無稽の作り事として葬り去られた形であり、勿論そこには時代の反映として余りに長時間の演出を許されないので、自然さういふ結果になつたのでありますが、而して一面人形舞台として、又語り物とし

ても、何處か古風な面影が親はれ科學萬能の現代から振り返つて見ますると、この淨瑠璃が持つ囉された徳川時代の人心の倚り所も察せられ、又一面、作劇の上にも、特種な妙趣が察知し得られることゝ存じまして、道春館に至るまでの異國の段は割愛いたしましたし、院本にもある通り、これより日本、と稱する道春館とその以後、唐土天竺日本、と三國傳來の金毛九尾の怪物が、日本全土の神佛を破却して、わが國の道德を魔道に陥れんと豪語して、暴れ廻ります件を、時間的許しませ、限り長短よろしく取捨いたしましたし、これもこの記念興行を絶好の機會として選定上演いたします次第に御座います。

て、何處か古風な面影が親はれ科學萬能の現代から振り返つて見ますると、この淨瑠璃が持つ囉された徳川時代の人心の倚り所も察せられ、又一面、作劇の上にも、特種な妙趣が察知し得られることゝ存じまして、道春館に至るまでの異國の段は割愛いたしましたし、院本にもある通り、これより日本、と稱する道春館とその以後、唐土天竺日本、と三國傳來の金毛九尾の怪物が、日本全土の神佛を破却して、わが國の道德を魔道に陥れんと豪語して、暴れ廻ります件を、時間的許しませ、限り長短よろしく取捨いたしましたし、これもこの記念興行を絶好の機會として選定上演いたします次第に御座います。



山科の段

竹本津太夫 作曲
鶴澤綱造

三味線

中竹本長尾太夫
鶴澤友衛門
鶴澤寛市
切竹本津太夫
鶴澤綱造

人形

山科の段

大星力彌 吉田扇太郎
奴岡平 吉田玉松
僧 吉田玉徳
巡禮 吉田文之助
馬野方 吉田瓢菴
高野聖 吉田瓢菴
一勢御 吉田文二郎
六勢御 吉田多三郎
商部 吉田兵三郎
飛脚 吉田榮三郎
大星由良之介 吉田文五郎
奥方お石 吉田小兵吉
由良之介の母

元祖義太夫 記念狂言 碁盤太平記

竹本津太夫 作曲
鶴澤綱造

山科の段

赤穂義士を扱つたものは御承知の通り芝居の獨參湯と云はれる仮名手本忠臣藏を始め、殆んど百種以上もあらうといふほどで、歌舞伎にも淨瑠璃にも

残されて居りますが、この碁盤太平記が、先づ最初の作と云つてもよいもので、近松門左衛門の傑作です、寶永三年六月に書卸されて始めて義太夫の口によつて傳へられた竹本座の上演狂言です。それでも仇討の有つた元祿十四

年から數へて數年の後に上演されて居りますわけは、やはり唯今と同じやうに時局物を舞臺に上演することは中々

難かしく其筋の取締りといふものに觸れますから、このやうに後になつて傳へられたものと見えます。勿論この狂言ではモウ露骨に大星由良之助の敵討といふ筋は書かれて居りますが實は此狂言の出る前同年の三月に「兼好法師物見事」といふ狂言で、其筋の意向を索つてゝもゐるやうに、わづかに高師直といふ色好みの武士が顔世御前とい

ふ摺谷の妻に横戀慕をする太平記の記
事を眞似たやうなものが出来て、そこ
でモウ大丈夫といふ見極めを附けてこ
の狂言を書いたやうな跡が見受けられ
ます。そこで、かういふ名作が、
永らく不思議にも、淨瑠璃の方では語
られず、そのまゝに打捨てられてゐた
のですが、御承知の通り關西の名優中
村鷹治郎文は立派に己れの得意の狂言
として、歌舞伎化して居ります。渡邊
霞亭氏の名脚色で、實によい狂言に
なつて居ります。ところが原作とても

元より凡作ではなく、御覽になりまし
た歌舞伎と別段異つたところがあるわ
けでなく、歌舞伎では奴岡平が高村逸
平太といふ吉良家の間者で、大星の忠
義に感じて死を選んで吉良邸の容子を
救へますが、淨瑠璃ではこれが寺岡平
右衛門である点が違つてゐるくらいで
すが勿論、淨瑠璃には又獨特の味びが
ある筈ですから篤と御吟味を願ひま
す。そこで之れを受持つて語る當座の
紋下竹本津太夫はその合三味線の鶴澤
綱造と相談して、何んでも後世に己れ

の出し狂言として皆様から推賞されん
ものと必死の努力を拂つて節附作曲に
熱中いたし研究に研究を重ねて漸やく
上演の運びに至りました次第です。あ
たら埋れた名曲がかうして再び皆様の
前へ現はれますことは藝界の上にもま
ことに結構なことで幸ひに皆様の御後
援によりまして、今後かういふ企てが
暫々繰り返されますやう切に御願ひ申
上げます、まだく斯道には澤山な名
曲が埋れてゐることゝ存じまして、特
にこのことを申添えました次第でござ
います。



四條河原より堀川猿廻しの段迄

四條河原の段

竹本文字 大夫
野澤勝 平

堀川猿廻しの段

切豊竹古靱 太夫
鶴澤清 六
ツレ 鶴澤重 造

人形

四條河原の段

一井筒屋 傳兵衛 吉田玉 幸
一横瀬官左衛門 吉田玉 市
一廻しの久八 吉田榮三 郎

堀川猿廻しの段

一弟子おつる 桐竹紋 司
一與次郎の母 吉田玉 七
一兄 與次郎 吉田榮三
一娘 お俊 桐竹紋 十
一井筒屋 傳兵衛 吉田玉 幸

次狂言 近頃河原の達引

四條河原の段

堀川猿廻しの段

「それや聞えませぬ傳兵衛さん」で有

名なこの淨瑠璃はおしゆん傳兵衛の心

中を主材としたもので、元文三年十一

月十六日の朝京都聖護院の森に於て發

見された吳服屋井筒屋傳兵衛と元斗町

近江屋の抱へお俊との情死事件と、同

じ頃京の公卿侍と所司代の下部とが

四條顔見世芝居の歸途喧嘩双傷に及び

し一件と、孝子として表彰された猿廻

しの丹後屋佐七の話とを取合せ佐七を

與次郎に作りてお俊の兄として構想

したものです。天明五年五月江戸肥前

座に書下され、爲川宗輔、筒川半二、

奈河七五三助の合作であります、こ

れより先き豊竹八重太夫が天明二年道

頓堀中の芝居で語つてゐます。この堀

川は全曲の中の巻になつてゐます。

竹本義太夫傳

その頃天王寺逢阪のほとり、安居天神の山下に、さゝやかな畑地を耕してゐる二十歳あまりの若者があつた。若者は頑丈さうな身体を毎日この畑地へ運んで来ては、せつせとよく働いてゐた。土地の人達はこの若者を五郎兵衛と呼んでゐた。五郎兵衛には毎日同じやうなことを繰り返してゐる畑仕事の他に、實は人知れぬ樂しみがあつたのである。麗らかな日さしを浴びながら青空を仰いで、この頃流行の淨瑠璃節を、聲張り上げて唄つてゐる氣持は何んとも云へぬ愉快さであつた。事實五郎兵衛は他の百姓の子などの眞似の出來ない大きな聲をもつてゐて、他の若者が田植歌やたゞの野良歌より唄へぬのに反して、自分だけが淨瑠璃節をすん／＼唸ることの出来るのが馬鹿に嬉

しかつた。稽古もしない五郎兵衛が、いつの間に淨瑠璃を覚え込んだのか、それにはこの畑地が、五郎兵衛に淨瑠璃を教へるのに、まことに都合よく出てゐた。この畑地の東の崖の上には、その頃天王寺に於ける八軒茶屋の中でも、福屋などゝ並び稱されて有名な徳屋といふ料亭が、天神山の翠巒を背負つて、五郎兵衛の畑地を覗いてゐる。その二階座敷が畑仕事をしてゐる五郎兵衛のホンの頭の上にあつて、これから五郎兵衛の好きな淨瑠璃が絶えず聞こえて来る。最初はたゞ口眞似をしてゐるに過ぎなかつたが、日を経るに従つて、淨瑠璃の面白さが忘れられなくなつて来た。それもその筈で、その徳屋の二階から漏れてくる淨瑠璃といふのは、當時大阪の淨瑠璃男の霸王

井上播磨椽の從弟で、播磨椽の引退をした後二世播磨として持て囃された井上流淨瑠璃の直傳清水理兵衛の稽古場からくる堂々たるものであつた。この清水理兵衛がこの料亭徳屋の主人で、料理の本業の他に、かうして淨瑠璃の正統を繼ぎ、おまけに謡曲もやる、茶道、生花、圍碁、俳諧、なんでも御座れといふ風流人であつたから、その頃、多くの文人墨客や、門弟達がいづも出入りをしてゐて、二階ではよく淨瑠璃の稽古を門弟達にしてやつてゐた。かうした環境に日を送つてゐた。だから、五郎兵衛の淨瑠璃熱がだん／＼高まつてくるのは無理もない、追て樂しみから一步を進めて野心といふのに變つて来た。「俺れだつてやれないことはない」。たいいこの年頃の若者が抱くやうな空想をさへ浮べてゐた。年が年中田圃の中に泥足を踏み込

んで、變化もない畑仕事にあくせくするよりも、男と生れたかぎり大勢の世間の人達の前で、得意の淨瑠璃を語つてヤンヤと褒められた時はどうあらう。武士のやうに肩衣を着込んで見臺の前に直つてから身構へたところ、その心持は、取り止めもなく、それからそれへと憧れの心を馳せた。云ふまでもなく、淨瑠璃太夫は、他の藝人や又は普通の町人などゝ違つて、既に太夫の稱を許され、なほその上優れた技倆をもつてゐれば天聽に達し官名を授けられる。誰れしも志ある者が、これを一生の志願にしたのは當然である。金平淨瑠璃で名を上げた櫻井丹波椽の如き、最初斯道へ入る時「職人、商人となつては、事により無念なる儀もあり、人に構はぬ淨瑠璃太夫然るべし」と云つてゐる。

そのやうに五郎兵衛の太夫志望熱

も、當時の時勢として無理のないものであつた。或日から自信をもつやうになつて来たある日夏の日盛りの頃であつた。いつもの畑地で葺の辨當をすました五郎兵衛は、だし抜けに、井上流の淨瑠璃を聲張り上げて語り出した。すぐ上の二階にゐた清水理兵衛の耳へこの底力のある重々しい大聲が、けふはめづらしくも響いて来た。理兵衛はちつと耳を澄まして五郎兵衛の語るがまゝを聞いてゐた。

専門家の理兵衛の耳へ百姓の五郎兵衛が語る淨瑠璃が聞ける程度のものでないことはいふまでもない、而し理兵衛はちつと耳を澄ました。それは無論五郎兵衛の語り口を聞いてゐるのではなくて、聲の出どころを聞いてゐるのである。自分の多くの門弟のうちに、これほど調子の整つたものがない、この百姓餘程天稟が備つてゐる

と、そこは専門家だけにこんな風に耳を澄ましてゐるのであつた。

理兵衛はとうとう五郎兵衛を我前に呼び出した。五郎兵衛は憧れ切つた日頃の大使が成就したやうに喜んだ。昨日まで鋤鉞をとつて土を掘り返してゐた五郎兵衛は鋤だこの出来た手に拍子扇を持つて、名門の前に稽古を勵むことが出来る身になつた。數年ならずして、道頓堀虎屋喜太夫座の舞臺へと現はれる日がやつて来た。即ち延寶七年、彼二十九歳、もう五郎兵衛ではなくなつて、清水理太夫といふ名に變つてゐた。(中略)

貞享二年元月。

いよいよ新派淨瑠璃義太夫節樹立の日が来た。舊風打破、革命一發の烽火は、泰平の夢まどかなる古淨瑠璃や、手品からくり、歌舞伎小屋の立ち並ぶ、道頓堀の眞つ唯中から物凄い響を

大立てた。思へば星霜十年ならずして、天王寺村の小百姓が、華々しく藝壇へ乗り出して、淨瑠璃革命の烽火を揚げやうとは、彼れ漸やくにして三十五歳。

新派義太夫節なる大旗は、道頓堀西の芝居（今の浪花座の在る處）に勇ましく翻へつた。櫓下には長方形の大看板に「太夫、竹本義太夫」の七字を墨痕あざやかに大書して座長の責任を明かにし、こゝに即ち「櫓下」なる名稱の嚴肅なる意義を確立した。（中略）

玉藻前の傳説並に戯曲類

傳説によりますと、鳥羽天皇の御代に才色無双の美女が宮中に現はれまして、總身から光りを放つて邊りを照らすので玉藻前と名付けて御感斜ならず、遂にお妃に召されました。すると天皇は御不例がつゞき、御惱が日々にも重らせ給ふので、陰陽博士安倍泰親が占ひ

かうして義太夫の技藝は次第に圓熟して、元祿十四年五月、遂に彼れの頭上に榮冠が翳された。時しも東山天皇の御宇、勅許によつて竹本筑後藤原博教、と名乗ることになつた。五十一歳。（中略）

かくて一世の大藝術家義太夫は遂に六十四歳を一期として正徳四年九月十日、不朽の名を残して此世を去つた。墳墓は現在天王寺南門南超願寺に在る。（文樂今昔譚より）

奉りますと、玉藻前こそ實は三國傳金毛九尾の狐の化現であつて、世界人類を全滅させて魔界を出現させんとし、願ひから、先づ殷の紂王の宮に入つては姫妃と稱し、天竺へ渡つては班足王に淫酒をすゝめる華陽夫人と化し、更に支那に歸つては周の幽王の妃褒姒

となつて、いづれも國を亡ぼさんと謀り、遂には我日本へ渡つて陰謀の時機を覗つてゐるものと知れたのです。そこで安倍泰親は口に呪文を唱へ、三度墓目の法を行ひますと、玉藻前は忽ち妖狐の正体を現はして下野國那須野原に飛び去つてしまひます。勅命を蒙つた三浦の介義朝、上總の介廣常が之れを首尾よく討止めてしまひます。が、尙も妖狐の一念は凝り固つて殺生石となります。人類は元より鳥獸でも此石に觸れたものは皆斃死してしまふといふ恐ろしい怨靈です。そこで其後後深草天皇の御代に徳望の高かつた玄翁和尚が勅を奉じて那須野へ下り、法力を以て殺生石を眞二つに破碎して始めて惡靈は全く退散することになりました。此傳説は「下學集」「海藏寺開山傳」といふ昔の本に出て居ります。

この傳説によつて脚色されたのが今度上演する「玉藻前曠杖」を始め、

その後文化三年には「増補玉藻前曠袂」作者佐川藤太、梅枝軒、などがあり、又歌舞伎狂言には、文化四年六月、江戸市村座の夏狂言に「三國妖婦傳」、華陽夫人の靈、姐妃、玉藻前、(松助)。文化八年七月同市村座で鶴屋南北作「玉藻前尾花鋪繪」九尾の狐、殷の紂王三浦之助(幸四郎)華陽夫人姐妃、玉藻前(半四郎)。又文政四年七月河原崎座で、鶴屋南北作「玉藻前御園公館三代目菊五郎の大當り狂言。又所作事には、文政二年九月江戸中村座では「御名残繪交張」長唄で芝翫の九變化となつて居ります。

以上のやうな種類が盛んに上演されたもので、上方では無論芝居の方でも、この淨瑠璃の筋が改作されたりして上演されて居ります。

又小説の類では、文化元年の刊行で、高井蘭山が「繪本三國妖婦傳」を著はして居り、文化五年には式亭三馬が「玉藻前三國傳記」を出し、文化七

年には、五柳亭徳舛が「三國白狐傳」、天保元年には又同じ作者の「三國妖婦傳」などがありませう。諸曲の「殺生石」、も無論この傳説から脚色されたものであります。

お俊傳兵衛の話

京都の烏邊山本講寺の境内に、お俊傳兵衛の墓と云ひ傳へるものがありまして、縁結びの佛といふので若い男女の參詣が絶えないといふ、碑面には元文二年十一月とあつて、又一説、元文三年十一月十六日の朝、聖護院の森で井筒屋傳兵衛といふ呉服商人と先斗町の遊女近江屋お俊が心中をしたといふ、かういふ二つの説話があるのに、それより以前享保八年に此世を去つた都一中の語り物に「お俊傳兵衛河原の心中」といふ淨瑠璃が出来てゐることを思ふと、一寸どの邊から生れて出た傳説かど解らないことになつてしまふのですが、今では調べるたよりもない

以上の如く可なり多數の著作や上演があるところを見ると、如何に此傳説が當時の大衆に興味深く映つたかど窺はれる次第です。(歌舞伎細見より)

次第です。さういふ譯ですから、淨瑠璃の「近頃河原達引」も共に作者さへ判然としなひのです。近松半二とも云ひますが、それも想像で、文士の近松秋江先生などは此淨瑠璃が非常にお好きで、天晴れ名文だから或ひは近松門左衛門ではなからうかと以前話されたことがあります。

この淨瑠璃の猿廻しの與次郎を女に書き替へた趣向のものが、天保九年の秋、堀江市の側の芝居で西澤一鳳作「女猿曳聞諷」となつて現はれ、富十郎の女猿廻しで演ぜられて居ります。(歌舞伎細見より)

◆ 御 注 意

- (1) お座席の番號をお忘れないやうに
- (2) お帽子は椅子の下、或は御預り所へごうぞ
- (3) 棧敷はあみ棚があります、お持物はそれへ、お歸りにはお忘れなき様に
- (4) お持ちものも成るべく御預り所へ、そしてお歸りの節は混雑いたしますから是非終演一幕前にお受取の程を
- (5) お忘れものは事務所で保管いたしますが萬一出ないといけませんから御注意を願ひます
- (6) 切符は係員が集めに行きます迄は紛失せぬ様御所持願ひます
- (7) 切符紛失又は御所持なき時は觀覽席相當の料金申受けけます
- (8) いろ／＼の賣店は二階にあります
- (9) お食事は三階に大食堂の設備が御座います
- (10) 洗面所並に化粧室をお一人で長く塞がぬ様に願ひます
- (11) 便所は水洗式になつてゐますから御使用後は必ず一度水を通して戴きたい事。其他の紙等ではパイプが塞がり直ぐ使用出来なくなりますから御注意願ひます
- (12) 社交場として大食堂併用の各種宴会、懇親會、慰安會など御申込みの節は當座事務所で充分御便宜御相談上ります。

(御電話にて御一報くださいますれば早速係員を差遣し御相談申し上げます、専用電話南二六三一番)

(13) 其筋のお達しに依り演藝中タバコのみ様願ひます

(14) 係員に不都合の有りました節は御遠慮なく事務所迄御申聞せを願ひます

(15) 當座の設備その他につき御心附きの點は御面倒ながら御教示の程を

(16) 觀劇切手(各等共通)を發行いたして居ります、御贈答用として尤も御便利で御座います是非御利用を願ひます

(17) 劇場内はお互ひに清潔にいたしませう

(18) 御席では果物の皮、紙屑其他を散さぬ様にして戴きたい事

(19) 煙草の吸殻や痰つばは設けの器物以外にお捨にならぬ様願ひます

(20) 場内に於て寫眞撮影の儀は堅く御斷り申上げます

(21) 俳優萬一病氣の節は替役を以て相勤めますれば豫め御諒承を願ひます

芝 居 茶 屋

大	大	大	大	大	大
三	兵	岡	吉	松	川
龜	忠	島	電話南	堀	重
同	同	同	貳九〇	同	同
八	八	三	三	二	〇
六	八	六	三	八	八
二	七	三	三	七	七
二	七	丸	市	七	三
稻	龜	同	同	七	三
同	同	同	同	八	五
九	七	二	二	九	七
七	二	二	二	二	二

幕間には浪花座直營食堂へ

◇御食事は成るべく一暮前に御注文下さる様お願ひ致します

賣店 二階東側

食堂御案内

直營裏食堂

三階裏(和洋食)

直營表喫茶食堂

三階表(お飲物御辨當)

お食事の當辨おチ
お時御の當辨おチ
中間御の當辨おチ
定意用御の當辨おチ
食致を意用御の當辨おチ
ンラ食定に中間時事食お

御献立

洋食

御定食	松竹	一圓五十
A ランチ	チ(ケーキ付)	七
B ランチ	チ(コーヒー付)	五
スライ	ブイ(エビ又ハ魚)	三
ファミレス	ツ	三
ビーフステーキ	ツ	三
ビーフカツレツ	ツ	三
ビーフシチュウ	ツ	三
チキンカツレツ	ツ	三
コロツケ	ツ	三

和食

ハム	サラ	ダ	三
コールド	ビー	ラ	三
ヤサイ	サラ	ダ	三
チキン	ライス	ス	三
カレー	ライス	ス	三
パスタ	又ハジャム		十
お辨當	二重		五
同			十

和洋酒トお飲み物

ウヰ	井	スキー	四
ベル	ト	ワイン	三
ポルト	ワイン		三
ジョ	ビール	ン	五
アサ	ビ	ール	四
日本	酒	(大)	二
リ	ホン	シトロン	二
ソ	ウ	ダ	十
レ	モン	キ	五
コ	モン	キ	五
紅	茶		十

定價表

し	る	こ	十
ぞ	う	に	十
び	ん	ざ	十
玉	子	ぞ	十
お	ぼ	ろ	廿
ホ	ツ	レ	十
レ	モ	ン	十
ソ	ー	ダ	十
コ	ー	ダ	十
紅	ー	ダ	十
ク	ー	ダ	十
プ	ッ	ダ	十
蜜	豆		十
果	物	(二種)	十
サ	ンド	ウ	三
バ	イン	ズ	二

直營表喫茶食堂

直營裏食堂

十月の映畫案内

<p>千日前 大阪劇場</p>	<p>道頓堀 辨天座</p>	<p>道頓堀 朝日座</p>	<p>道頓堀 松竹座</p>
<p>開公日一</p>	<p>開公日近</p>	<p>開公日近</p>	<p>開公日近</p>
<p>大坂松竹少女歌劇第二回公演 「青春の花束」全十五景 サウンド版 山は夕焼 ワイナー映畫G・W・パブスト監督 徳大寺 伸・高杉早苗 主演 今日の男性 リチャード・バーセルメス氏主演</p>	<p>萬五郎青春記 大谷日出夫 主演 七寶の柱 中野かほる・他花形スター！ 風水害美談 愛の天職</p>	<p>サウンド版 愁風宴 坂東好太郎・飯塚敏子 主演 山は夕焼 徳大寺 伸・高杉早苗 主演 サウンド版 與太者と花嫁 磯野・阿部・三井・大塚・岩田 共演 瓦版かちかち山 高田浩吉 主演</p>	<p>メトロ社特作日本版 類猿人ターザンの復讐 ジョニー・ワイズミューラー氏 主演 メトロ社特作日本版 かたみの傑作 マリイ・ドレムスラー 主演 ライオネル・バリモア氏 主演 メトロ社特作日本版 我が心の灯 マリオン・ブライス嬢 主演</p>
<p>蒲田名物短篇喜劇 娘とバナナ 蒲田名物ヨタモトリオ新作 與太者と花嫁 阿三 磯野 秀秋 井野雄 正三 邦男 主演</p>	<p>喧嘩一代 風 寛壽郎 主演 野火の兄弟 阪東妻三郎 主演 熱風 小杉勇・高耕二・高津麗子 主演</p>	<p>「蒲田新名物おみさんシリーズ」 女の顔役 飯田 蝶子 主演 源三郎異變 林長二郎 主演・尾上菊五郎特別出演 サウンド版 金環蝕 川崎 幸内・藤井 圭 主演 オールドキー 生きとし生けるもの 川崎 弘子・大日方 傳 主演</p>	<p>フオックス社提供日本版 生ける人形 リリアン・ハアウエイ嬢 主演 獨逸ウフア映畫 今宵こそは ジャン・キーブラ 主演 RKO 超特作日本版 若草物語 カザリン・ヘンバリン 主演</p>

◇ 毎度有難う御座います ◇

▲ どうすれば皆様方に十分御満足して頂けるかと、當劇場はいつも心配致して居ります ▼

○ 今日ばようこそお越し下さいまして厚くお禮申上げます
 ○ けふ一日のお慰みの間に何かお心づきの點や行き届かぬところはございませんでしたでせうか
 ○ 當劇場は總て皆様本位に出来る限りお心持のよいお慰み場所に致したいと常々心配致して居りますからこうして欲しいとお思ひになりましたことは何事によらずどうぞ御遠慮なく左にお書き入れの上備付けの投書箱にお入れを願ひます
 ○ お教へに預りましたことを實施致します時は何らかの形でお禮の御挨拶を申上げたいと思ひますからなるべくお所々お名前をお書き添へいたゞきたいと存じます

欄 入 記 御		
名 氏	所 住	御

毎度ありがたうございませす
 此次ぎの御觀劇にも

是非皆様の浪花座へ！

浪花座は必ず皆様に御満足して頂くやう諸設備に萬全を期して是非皆様の御利用をお待ちしてをります

は に 劇 觀 体 團

券 會 宴 劇 觀

御願ひの 利用する

席等附 食食付	席等附 食食付	席等附 食食付	
席等附 食食付	席等附 食食付	席等附 食食付	

也錢拾六圓四金 (A)

也圓 參金 (B)

● すまじ願ひに上以様人十二はみ込申お ●

諸種の御會合には
 當座を御利用が好適と存じます
 御申込次第係員參上總て御便宜に相計らひ申し上げます
 多人數様…御觀劇の節は特別御相談申上げます
 お申込は…浪花座事務所へ（専用電話南二六三二番）
 お食事は…當座直營食堂の御利用—を

輕便 重寶 共通 觀覽切手發賣

好劇家皆様の御便利を圖り、松竹經營各地劇場共通觀覽切手を發賣して居ますから何卒御利用下さい。四季折々の召上り物の場内賣店の御買
 一、觀覽切手は壹圓、貳圓、參圓、五圓、拾圓、貳拾圓の六種にて切手と包裝は優美にして、
 一、上品、及本家茶屋營業案内所前茶屋等一切の御支拂に通用致します。
 一、觀覽切手は本社經營の各地劇場に通用致します。
 一、觀覽切手の様式は、例へば拾圓切手なれば壹圓券拾枚、壹圓切手なれば拾
 一、錢券拾枚を添付してありますから御入用だけ切取つて御使用が出来ます。
 一、觀覽切手は左記の場所にて發賣致します。電話にて御注文下さいませれば
 一、何程にても迅速御届申上げます。

- 大阪市南區難波新地三番町七番地 大阪 歌舞伎座 代表電話三九二五番
- 大阪市北區渡邊橋朝日ビル一階 大阪 市道頓堀 角 座 電話南二二二二番
- 大阪市南區難波新地三番町七番地 大阪 歌舞伎座 電話南二二二二番
- 大阪市北區渡邊橋朝日ビル一階 大阪 市道頓堀 角 座 電話南二二二二番
- 大阪市南區難波新地三番町七番地 大阪 歌舞伎座 電話南二二二二番

前賣切符の御利用願ひます

わざと御來場下さいまして、満員の爲め不得已得御入場を
 御断り申上げる場合も往々御座います。故御便宜上前賣切符
 の御買求めを願ひます。前賣切符は御觀劇日と等級を御
 指定の上、電話又は御使にて御用命下さいませれば市内に
 限り、遠近に拘らず御一名様にも直に御届けいたします。
 故、御觀劇には最も御便利な前賣切符の御利用を願ひます。

前賣切符發賣所

團體御觀劇御申込専用電話
 大阪 歌舞伎座 (戎三九二五番) 五日前より發賣
 道頓堀 座 (南一二七九番) 五日前より發賣
 中 座 (南二二二二番) 三日前より發賣
 浪花 座 (南二六三三番) 三日前より發賣
 (各座にては午前十時より午後十時まで發賣します)

御觀劇には是非一部を
 月刊演劇 道頓堀 毎月一日發行 一部金參拾錢
 研究雜誌 各座の新作脚本の掲載、美しい舞臺寫眞
 歌舞伎秘傳の型の研究、劇壇ゴシップ
 東西文士劇通家の寶玉記事滿載
 直接御申込は 大阪市南區難波新地三番町七
 大阪歌舞伎座内 道頓堀編輯部宛

はに劇觀御

團體御觀劇

御申込みの節は早速係員參上充分御便誼御相談申上げます
 尙御食事付御觀劇の御申込みにも御相談申上げます

浪花座事務所
 專用電話南二六三二番

南海直營ガイドセンター

歌舞伎座・浪花座・中座・御觀劇の御用を承ります
 南海電車 難波驛西側入口 電話戎四一四八番

南三二一五番と是非京阪案内所へ

お場席もよろしいし一枚 電話南三二一五番
 にも配達致します 電話南一八三六番

プレイガイドの御利用を

渡邊橋朝日ビル一階 電話本局三三〇九番 三九九五番
 各座の切符が取揃つてありますから今直ぐ言つて調ひます

